

令和2年度岩城少年自然の家第2回協働会議 要旨

1 日 時 令和3年1月26日(火) 午前10時から午前11時半まで

2 場 所 岩城少年自然の家 大研修室

3 出席者

(1) 委員(五十音順)

遠藤委員、加納委員、齋藤徹委員(会長)、菅原委員、関谷委員、高橋委員

(2) 県教育庁生涯学習課

青池主任指導主事、川田社会教育主事

(3) 岩城少年自然の家(事務局)

佐藤所長、加藤副主幹(兼)班長、鈴木主任社会教育主事(兼)班長、谷口主事

4 議事概要

(1) 岩城少年自然の家所長あいさつ

(2) 教育庁生涯学習課長あいさつ

(3) 出席者紹介

(4) 議事

5 委員からの主な意見

- ・新型コロナウイルスの感染防止対策をしっかりと実施している。
- ・コロナ禍という大変な状況においても、できる限りのことをしていると思う。公共的使命をどのような形で実施していくかが大事である。
- ・由利本荘市ではこれまで継続的に実施していた市民参加型事業について、実績が年間100とすれば、今年度は3程度しか実施できていない。
- ・新型コロナウイルス感染症により、これまでのような施設利用ができない今だからこそ、これまで自然の家が継続的、または当たり前に行っていた業務や企画を見直すよい機会である。
- ・感染防止対策を行うことが施設利用によって得られるであろうねらいを達成できないものになるのであれば、利用する側としては利用しないという判断も選択肢である。
- ・今年度の事業を見ると、海の要素が少ないと感じられる。地元の漁港とタッグを組んだり、岩城ならではと思ってもらえるような魅力のある食事の提供を検討してほしい。